

三和油化工業

ブライイン製販に参入

大塚化学の 事業継承 主原料再生も展開

三和油化工業(愛知県刈谷市、柳忍社長)は、ブライイン(冷熱媒)の製造販売に乗り出す。大塚化学のブライイン(商品名・シャダンBE、BPE)事業を継承するもので、4月からビルや工場向けの本格供給に乗り出す。また、同社が得意とする廃液のリサイクル、リユ

ース技術を生かし、ブライインの主原料となるエチレンクリコール、プロピレンクリコールの再生にも取り組む。供給から回収、再生化の循環体制を築くことでブライイン事業の拡大を図る。

大塚化学は十数年前から、化学工場や食品工場などの産業用をはじめ、ビルやショッピングモールなどの空調用にブライインを年間300〜400トンの供給実績を積み上げてきた。しかし、事業の拡大が見込めないことから互いの強みを生かし、大塚化学がビドラシン事業で培った防食防錆剤の供給を行い、三和油化工業がブライインの製造販売

を開始するもの。三和油化工業では引き続き、同品質、同じブランド名で供給を行う。

三和油化工業は従来から委託を受け、ブライインの回収を手掛けてきた経験をもつ。今回の事業継承にともない、ブライインの製造および充填設備を石根工場(愛知県刈谷市)

石根工場内に設置したブライインの製造および充填設備



内に設置し、供給体制を整えた。同社が得意とする

イクル事業の広がりに対応する。

るリサイクル、リユース技術を生かしながら売り上げベースで早期に1億円前後のビジネス構築を目指す。

また、5月に本格的な生産活動に入る予定の茨城工場でも将来、ブライインのリユース、リサ